

アシタのたかはま研究所からの研究レポート⑦

『アシタのたかはま研究所からの研究レポート』では、高浜市の現状や将来の姿についてお伝えしていきます。

高浜市×名古屋市立大学(若者・よそ者)

活動をととして地域社会に貢献すること、さらに大学では学べない「現場」にふれることを目的として、名古屋市立大学と高浜市はさまざまな事業で交流を続けています。

平成27年8月18日～9月6日、3人の学生が「ソーシャルインターンシップ」として、高浜市でまちづくり協議会の活動に参加するなど「まちづくり」を肌で体験し、インターンシップが終了した後も「しあわせづくりワークショップ」などに参加してくれています。

そこで、高浜市民ではない彼らが「高浜市のまちづくり」を見て、体験し、感じたことをまとめてくれました。

若い世代が、まちづくりに関わる姿は、これからのまちづくりの可能性を感じさせてくれました。



吉浜小学校校区の総合防災訓練でも大活躍!



田戸町川まつりは大成功!南部まち協と…
あんどん
行灯作成を学生がお手伝い

— 結論：「まちづくり」は楽しい。 —

私たちは、大学で「まちづくり」を学んでいます。授業では、『少子高齢化』『過疎化』『東京一極集中』『インフラの老朽化』『中心市街地の空洞化』…目の前には課題がいっぱい。

しかし、実際に現場に出て活動を行っていくうちに、まちづくりに対する想いが変わってきました。田戸町川まつりで、南部まちづくり協議会の方といっしょに行灯づくりを手伝ったとき、私たちは楽しくて熱中しながら「まちづくりとどう関係があるのだろうか?」という疑問が片瞬にありました。でも、まちの人たちの姿を見ていると「楽しくなければ続かない」という言葉が浮かんできました。

「まちづくりの勉強はひたすら机で成功事例を研究しながら学ぶだけでなく、人と人のつながりの中で学んでいくことが重要である」と「高浜市のまちづくり」から教えていただきました。



名古屋市立大学人文社会学部1年
稲葉直也さん 牧野晃平さん 白木いくみさん